

# ねりまつうしん

ねんあきごう  
2024年秋号

たげん ごじょうほう しえんいん えいごたんとう  
多言語情報支援員(英語担当)

いしだ あつこ  
石田 厚子

## あき い 秋のけはひ

ことし げんじものがたり さっか むらさきしきぶ しゅじんこう てれびどらま にんき  
今年、「源氏物語」の作家、紫式部を主人公にした、テレビドラマが人気です。

げんじものがたり かんせい にほん いちばんふる ちょうへんしょうせつ  
「源氏物語」は今から約1000年前に完成したとされる日本で一番古い長編小説で、

せんねん よ さくひん しゅじんこう かがや うつく さいのう めぐ  
千年にわたり、読まれている作品です。主人公は輝くように美しく才能にも恵まれた

おうじ ひかるげんじ おさな な うつく はは おもかげ もと  
皇子<sup>1</sup>、光源氏です。幼いころに亡くなった美しい母の面影を求めて、たくさんの

じょせい れんあい いま まんが しゅじんこう ゆうめい  
女性と恋愛をします。今では、漫画の主人公としても有名ですね。

さっか むらさきしきぶ ちょうてい はたら によかん  
作家の紫式部は朝廷<sup>2</sup>で働いていた女官<sup>3</sup>で、

おうちょうぶんか はってん じだい きぞくしゃかい うつく  
王朝文化<sup>4</sup>が発展した時代の貴族社会を美しい

ぶんしょう か せんねん まえ むらさきしきぶ  
文章で書きました。千年も前に、紫式部がこのよ

うつく ものがたり か とうじ しきじりつ  
うな美しい物語を書いていたのは、当時の識字率<sup>5</sup>な



<sup>1</sup> おうじ てんのう むすこ  
皇子:天皇の息子

<sup>2</sup> ちょうてい てんのう きぞく せいじ おこな ぼしよ  
朝廷:天皇や貴族が政治を行う場所やしくみ

<sup>3</sup> によかん ちょうてい はたら じょせい  
女官:朝廷で働く女性

<sup>4</sup> おうちょうぶんか へいあんじだい おも きぞくしゃかい はなひら にほんてきとくしよく ぶんか  
王朝文化:平安時代、主に貴族社会で花開いた日本の特色をもつ文化

<sup>5</sup> しきじりつ もじ よ か ひと わりあい  
識字率:文字の読み書きができる人の割合

かんが おどろ だんせい ちゆうしん つか かんぶん じざい よ げんがつき  
どを考 えると 驚 きます。男 性を 中 心に使 われて いた 漢 文も 自 在に 読 み、弦 樂 器の

めいじん かんじょう りかい さんじゅう  
「そう」の 名 人 でも あった よう です。「もの の あわれ」(し み じ み し た 感 情)を 理 解 し、「三 十

ろつかせん ひとり  
六 歌 仙<sup>6</sup>の 1人 です。

むらさきしきぶ げんじものがたり ほか わか きゆうちゅう ようす につき てがみ か  
紫 式 部 は「源 氏 物 語」の 他 にも、た く さん の 和 歌 や、宮 中<sup>7</sup>の 様 子 を 日 記 と 手 紙 で 書

むらさきしきぶにつき のこ むらさきしきぶにつき あき い ゆうめい  
いた「紫 式 部 日 記」を 残 して います。「紫 式 部 日 記」に「秋 の け は ひ」とい う 有 名 な

いちぶん  
一 文 が あ り ます。

あき けはい ふか つちみかどてい ようす ことば かた  
秋 の 気 配 が 深 まる に つれ て、こ の 土 御 門 邸 の 様 子 は、言 葉 で は 語 り つ く せ な い ほ ど

すば おもむき  
の 素 晴 ら し い 趣<sup>8</sup>に つ つ ま れ て いる。

いけ きぎ こずえ やりみず くさ いちめん うつく いろ  
池 の ま わ り の 木 々 の 梢<sup>9</sup>、鑑 水<sup>10</sup>の ほ と り の 草 む ら、そ れ ぞ れ が 一 面 に 美 し く 色 づ

そらいちめん ようす じつ ふぜい  
き、あ た り の 空 一 面 の 様 子 も、実 に あ ぎ や か な 風 情<sup>11</sup>が あ る。

ひ た ふだん ちゅうぐう さま あんざんきがん みどきょう  
そ れ ら に、そ の ま ま 引 き 立 て ら れ て、不 断<sup>12</sup>の(中 宮<sup>13</sup>様 の 安 産 祈 願 の た め の)御 読 経

こえごえ ころ  
の 声 々 が、い つ そ う 心 に し み いる。

すこ すず かせ けはい なか た ま き く おと よ  
少 し ず つ、涼 し く な る 風 の 気 配 の 中、絶 え 間 な く 聞 こ え て 来 る せ せ ら ぎ の 音 は、夜

どおき つづ かせ みず くべつ げんだいごやく  
通 し 聞 こ え 続 け て、風 と 水 と の 区 別 も つ か な い(現 代 語 訳)

6 三十六歌仙:平安時代の和歌の名人36人

7 宮中:天皇が住むところの中

8 趣:あじわい。おもしろみ。

9 梢:木の幹や枝の先。木の先端

10 鑑水:庭に水を引き入れて作った流れ

11 風情:独特の趣。あじわい。

12 不断:絶え間ないこと。途切れることのないこと

13 中宮:天皇の正妻



いま ちが いどうしゅだん  
今と違って、移動手段もほとんどなく、

くうちょう じだい おも つうしんしゅだん  
空調<sup>14</sup>もない時代。主な通信手段は、手

かぎ じだい ひとびと  
紙に限られていた時代だからこそ、人々

しぜん ひと ところ びんかん かん ちから  
の、自然や人の心を敏感に感じる力

みが あ し  
が、磨き上げられていったのかも知れませ

かぎ くわかん なか じぶん ごかん  
ん。限られた空間の中で、自分の五感<sup>15</sup>を

と す あき けはい ところいっぱい かん むらさきしきぶ かんせい め みは  
研ぎ澄ませて、秋の気配を心一杯に感じていた紫式部の感性<sup>16</sup>には目を見張るもの

どうじ いっしゅ せんぼう おも わ  
があります。と同時に、一種の羨望<sup>17</sup>の思いも湧いてきます。

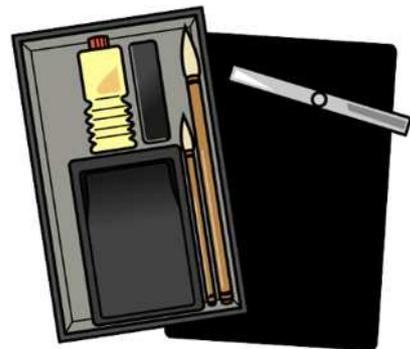
いま い わたし すまーとふおん お  
今を生きる私たちも、たまには、スマートフォンを置い

ふか いき す こ すずり みず すこ そそ  
て、深く息を吸い込み、硯<sup>18</sup>に水を少し注いで、

すみ かお たの すみ す つき み ひと  
墨の香りを楽しみながら、墨を磨り、月を見て、人や

しぜん へんか おも ふで ぶん かく  
自然の変化を思い、ゆっくり筆をとって文を書く、そん

ぜいたく じかん も おも  
な贅沢な時間を持ちたいと思います。



<sup>14</sup> 空調: 室内の空気の温度・湿度などを調整すること。

<sup>15</sup> 五感: 視覚(みる)、聴覚(きく)、味覚(味わう)、嗅覚(嗅ぐ)、触覚(皮膚で感じる)の5つの感覚のこと

<sup>16</sup> 感性: 物事に感じる能力

<sup>17</sup> 羨望: うらやましく思うこと

<sup>18</sup> 硯: 石などで作った、墨を磨る道具

## じぎょうすいしんがかり 事業推進係からのお知らせ

### ぶんかこうりゅう じょうほう こ な りょう <文化交流ひろば情報コーナーをご利用ください>

にほんごがくしゅう じょうほう がいこくじん せいかつじょうほう たげんご ていきょう  
日本語学習の情報や外国人のための生活情報などを多言語により提供します。

ぼしよ ねりまくひかり おか  
【場所】 練馬区光が丘3-1-1

でんわ  
【電話】 03-3975-1252

かいせつにちじ へいじつ ごぜん じ ごご じ ど にち しゆく ごご じ じ  
【開設日時】 平日（午前10時～午後1時）、土・日・祝（午後1時～4時）

ねんまつねんし ぶんかこうりゅう きゅうかんび のぞ  
※年末年始など「文化交流ひろば」休館日を除く

たいおうげんご えいご か もく ど ちゅうごくご すい きん にち かんこくご げつ  
【対応言語】 英語（火・木・土）、中国語（水・金・日）、韓国語（月）

たげんご と あ  
※その他の言語はお問い合わせください。

### がいこくごそうだんまどぐち りょう <外国語相談窓口をご利用ください>

ちいきしんこうかじぎょうすいしんがかり えいご ちゅうごくご かんこくご たがるごご にほんご  
地域振興課事業推進係では、英語・中国語・韓国語・タガログ語・日本語でいろ  
いろう いろいろ さまざまな相談ができます。電話での相談も受け付けます。

ぼしよ ちいきしんこうか くやくしよほんちようしゃ かい ねりまくとよたまきた  
【場所】 地域振興課（区役所本庁舎9階） 練馬区豊玉北6-12-1

でんわ  
【電話】 03-5984-4333

かいせつにちじ へいじつ ごご じ じ  
【開設日時】 平日（午後1時～5時）

たいおうげんご えいご げつ きん ちゅうごくご げつ きん かんこくご きん たがるごご げつ  
【対応言語】 英語：月～金、中国語：月～金、韓国語：金、タガログ語：月

たげんご と あ  
※その他の言語はお問い合わせください。

### にほんじん がいこくじん こうりゅう いべんと かいさい くわ <日本人と外国人が交流できるイベントなどを開催しています。詳しくはこちら>

くこうしき  
【区公式HP】 <https://www.city.nerima.tokyo.jp/gaikokunohitomuke/bunka.html>

こーど  
【QRコード】



ねりまくちいきしんこうかじぎょうすいしんがかり  
練馬区地域振興課事業推進係  
〒176-8501

ねりまくとよたまきた  
練馬区豊玉北6-12-1  
ねりまくやくしよほんちようしゃ かい  
練馬区役所本庁舎9階

でんわ  
電話03（5984）4333

e-mail:CHIIKI17@city.nerima.tokyo.jp

へんしゅう ぶんかこうりゅう  
編集：文化交流ひろば  
ひかり おか  
（光が丘3-1-1）

たげんごじょうほうしえんいん  
多言語情報支援員

いしだ あつこ えいごたんとう  
石田 厚子（英語担当）

なす きよみ ちゅうごくごたんとう  
奈須 清美（中国語担当）

よ おおく かんこくごたんとう  
呂 佳玉（韓国語担当）

Autumn, 2024  
Information Desk Support Staff (English)  
Atsuko Ishida

## Signs of Autumn

This year, a TV drama starring Murasaki Shikibu, the author of *The Tale of Genji*, is attracting people's attention. It is the oldest Japanese full-length novel completed about one thousand years ago and has been read for over a thousand years.

The main character is the radiantly beautiful and talented prince, Hikaru Genji. Seeking the image of his beautiful mother, who passed away when she was very young, he falls in love with many women. Now, he is also famous as a manga character.

The author, Murasaki Shikibu, was a court lady who worked at the Imperial Court and wrote beautiful prose about the aristocratic society of the era when imperial culture was developing. She wrote it a thousand years ago, which is



surprising considering the literacy rate of that time. Murasaki Shikibu was fluent in classical Chinese, mainly used by men, and was a master of the string instrument *sou*. She understood *mono no aware* (deeply felt emotions), and is one of the Thirty-Six Immortal Poets.

In addition to *The Tale of Genji*, Murasaki Shikibu also wrote many waka poems, diary entries, and letters about the Imperial Court in her *The Diary of Lady Murasaki*, which contains a famous passage entitled *The Signs of Autumn*.

*As autumn approaches, the Tsuchimikado residence is enveloped in a beautiful atmosphere that cannot be described in words. The treetops around the pond and the grass along the banks of the Yari-mizu River (brought in the flow of water to enjoy the atmosphere) are all beautifully colored, and the surrounding sky is also filled with a truly breathtaking charm.*

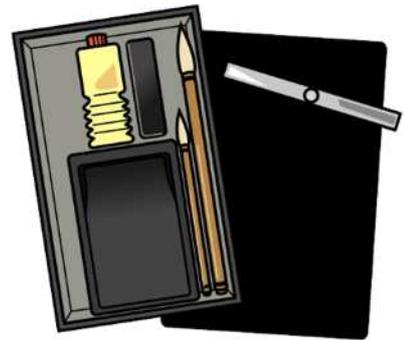
*The continuous chanting of sutras (for the Empress' safe delivery) is enhanced by these, making it even more moving. As the wind gradually cools, the constant sound of the stream continues all night, making it difficult to distinguish between wind and water. (Modern Japanese translation)*



Unlike today, at that time, there were almost no means of transportation and no air conditioning. And perhaps it was because the main way of communication was limited to writing, their sensitivity to nature and other people's

hearts was honed. Murasaki Shikibu's intuition, the sharpening of her five senses in a limited space, and her perception of the signs of autumn were amazing. It makes one feel a kind of envy, doesn't it?

Perhaps, we, people who live today would also like to have the luxury of putting down our smartphones occasionally, taking a deep breath, pouring a little water into the inkstone, and enjoying the scent of the ink, grinding of the ink. We could look up the moon, think about the changes in people and nature, and slowly pick up our brushes to write.



## Information from Nerima City Regional Promotion Section

### <Welcome to Information Desk at Cultural Exchange Square>

We provide all sorts of useful information in some languages for your daily life, including Japanese language classes and so on.

【Venue】 3-1-1、Hikarigaoka, Nerima City

【Telephone number】 03-3975-1252

【Open】 Weekday 10:00a.m.-1:00p.m.

Saturday, Sunday, holidays 1:00-4:00p.m.

※Closed: When Culture Exchange Square is closed, and the end of year and new year holidays.

【Languages】 English : Tue. Thu. Sat. Chinese: Wed. Fri. Sun.

Korean : Mon. ※Please make inquiries for other languages.

### <Please visit the Information Desk at Nerima City Office>

Counseling service in English, Chinese, Korean, Tagalog and Japanese is available at Nerima City Regional Promotion Section. Counseling on phone is also available.

【Venue】 Regional Promotion Office, 9<sup>th</sup> floor of Nerima City Main Building  
6-12-1, Toyotamakita, Nerima City

【Telephone Number】 03-5984-4333

【Open】 1:00p.m.-5:00p.m.

【Languages】 English : Mon.~Fri. Chinese : Mon.~Fri.

Korean : Fri. Tagalog : Mon.

※For other languages, please make inquiries.

### We hold events where Japanese and foreigners can interact with each other.

#### For more information

【Nerima City Official HP】

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/gaikokunohitomuke/bunka.html>

【QR】



Nerima City Office  
Regional Promotion Section  
〒176-8501 6-12-1, ToyotamaKita,  
Nerima, 9<sup>th</sup> floor,  
Nerima City Main Building  
Phone: 03-5984-4333  
Email: CHIIKI17@city.nerima.tokyo.jp

Edited by Nerima Cultural  
Exchange Square  
(Hikarigaoka3-1-1)  
Staff: Atsuko Ishida (English)  
Kiyomi Nasu (Chinese)  
Gaok Yeo (Korean)

2024 年秋季号

多言语情报支援员（英语担当）

石田 厚子

## 秋のけはひ-----秋天的气息

今年以「源氏物语」的作者紫式部为主人公的电视剧，受到众多的关注和关心。

「源氏物语」是推出至今约一千年前完成的一部日本最古老的长篇小说。在长达一千年中，这篇长篇小说被人们广泛阅读。主人公是一位被赋予了光辉耀眼才能的皇子光源氏。他为了追忆自己年幼时过世的美貌的母亲，重复着与母亲相似的女孩子有过恋爱史。在现代的漫画中他也是一位有名的主人公。

作者紫式部是侍奉过朝廷的女官，她以华丽的写作风格描述了王朝文化最繁盛时代的贵族社会。一千多年以前，紫式部已经可以抒写出这般生动而栩栩如生的小说，从当时的识字水准率来考虑是非常惊人的事。即使是以男子为中心使用的汉文，紫式部也能阅读的自由自在，还是一位弹奏弦乐器「箏」的名手。理解了「もののあわれ」（意味：深沉的情感）的涵义，又是被称作「三十六歌仙」（平安时代的和歌名手36位）中的一位。

紫式部不但留下了「源氏物语」，还留下了许多和歌，留下了「紫式部日记」，作品是以日记

和书信的形式写下了宫中的记事。「秋のけはひ」（意味：秋天的气息）是「紫式部



日記」里的一句名言。以下引用开头部分。

【秋の気配あき けはい ふかが深まるにつれて、この土御門邸つちみかどてい ようすの様子は、言葉ことばでは語りかたつुकせないほどの素晴らしい趣おもむきにつつまれている。

池のまわりの木々の梢きぎ こずえ やりみず、鑑水にわ みず（庭に水の流れを引き入れて、その趣おもむきを楽しんだもの）のほとりの草むらくさ、それぞれが一面いちめんに美しく色づきうつく いろ、あたりの空一面そらいちめんの様子も、実じつにあざやかな風情ふぜいがある。

それらに、そのまま引き立てられて、不断ふだんの（中宮様ちゅうぐうさまの安産祈願あんざん きがんのための）御読経みどきょうの声々こえごえが、いっそう心こころにしみいる。

少しずつすこ すず、涼しくなる風かぜの気配けはいの中、絶え間なく聞こえて来るせせらぎおとの音は、夜通しよどお聞こえ続けき つづて、風と水との区別かぜ みずもつかない（現代語訳）】

意味： 随着秋天气息的越加浓厚，【土御門邸】就是源雅信的府上名称，府里呈现出的那种绝色佳景，美的无法用语言来表达。

府里池塘边的树枝木杆，池塘引水的流水边的草丛都是一片片的美丽景色，连天空的景色也是同样的美丽。实在是情趣独特。

那不加修饰的自然美景，和随着不断传来的声声诵经音（是为天皇正妻的安产在祈福），更是又感受到秋天的气息又仿佛一种渗透到心底的感觉。在感觉到渐渐地变凉爽的秋风，又在整夜中隐约听到的潺潺流水声，让人难辨风声还是雨声。



和现在不同，那是一个几乎没有移动手段，也没有空调设备的时代。主要的通信手段被仅限于书信，那个时代才会使人们具有一种敏感的察觉到自然和人的心境的能力，也许那样的时代才会磨练出那样的能力。在那有限的空间里，磨练了自己敏锐的五种感觉。紫式部用她的全身全心来感受到了秋天的气息，她的那种感性让我们刮目相看，同时也涌起了一番羡慕的思情。

生活在现代的我们，有时真想暂且放下手中的手机，做一下深呼吸，砚台里滴入少许水，再陶醉于墨的芳香，然后一边磨墨一边举头望明月，思索着人间和自然的变化，最后慢慢的提笔写作，真向往这种奢华的时光。



## 事业推进系通知

### <请利用文化交流广场信息角>

用多种语言为外国人提供学习日语和生活信息

【地址】练马区光丘 3-1-1

【电话】03-3975-1252

【开设时间】平日的上午 10 点～下午 1 点

星期六 日 假日的下午 1 点～4 点 年末年始文化广场休馆

【对应语言】英语：星期二 星期四 星期六

中文：星期三 星期五 星期六

韩国语：星期一

※其他语言请先与我们联系

### <外语咨询窗口为您服务>

地域振兴课事业推进系可以用英语、中文、韩语、菲律宾语、日语为您提供咨询服务，并接受电话咨询。

【地址】地域振兴课（练马区役所本厅 9 楼） 练马区丰玉北 6-12-1

【电话】03-5984-4333

【开设时间】平日下午 1 点～5 点

【对应语言】英语：星期一～星期五 中文：星期一～星期五

韩语：星期五

菲律宾语：星期一

※ 其他语言请先与我们联系

### <日本人与外国人定期举办交流会 详情请见下>

【区公式 HP】

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/gaikokunohitomuke/bunka.html>

【QR】



练马区地域振兴课事业推进系

〒176-8501 练马区丰玉北 6-12-1

练马区役所本厅 9 楼

电话:03 (5984) 4333

e-mail:CHIIKI17@city.nerima.tokyo.jp

编辑：文化交流广场

（光丘 3-1-1）

多语言情报支援员

奈须清美（中国语担当）

石田 厚子（英语担当）

吕 佳玉（韩国语担当）

# 네리마 통신

2024년 가을호  
다언어 정보 지원원 (영어담당)  
이시다아즈코

## 가을의 느낌

올해는 「겐지 이야기」의 작가, 무라사키 시키부를 주인공으로 한, TV 드라마가 사람들의 주목을 끌고 있습니다. 「겐지 이야기」는 지금부터 약 천년 전에 완성되었다고 하는 일본에서 가장 오래된 장편소설로, 천년에 걸쳐, 읽혀 온 작품입니다. 주인공은 빛나고 아름다운 재능이 풍부한 황태자, 광원 씨입니다. 어린 시절에 죽은 아름다운 어머니의 모습을 찾아서, 수많은 여성과 연애 편력을 거듭합니다. 현대에서는 만화의 주인공으로도 유명하네요.

작가의 무라사키 시키부는 조정을 섬기고 있던 여관으로, 왕조 문화가 꽃핀 시대의 귀족 사회를 아름다운 문체로, 구성했습니다. 천년이 지나기 전에, 무라사키 시키부가 이미 이런 아름다운 이야기를 쓰고 있던 것은 당시의 식자율 등을 생각하면 놀라운 일입니다. 남성을 중심으로 사용되고 있던 한문도 자유자재로 읽어내, 현악기의 일종의



「호금」의 명인이기도 했습니다. 「인생 무상함」(은은한 정감)을 이해하고 「36 가선」(헤이안 시대의 와카 명인 36 명)에도 이름이 올라가 있습니다. 무하사키 시키부는 「겐지 이야기」 외에도 많은 와카와 미야나카의 모습을 일기와 편지로 쓴 작품 「무라사키 시키부 일기」를 남기고 있습니다. 「무라사키 시키부 일기」에 「가을의 느낌」이라는 유명한 문장이 있습니다.

다음은 그 시작 부분입니다.

가을 향기가 짙어짐에 따라, 이 츠치미카도 저택의 모습은 말로 표현할 수 없을 정도로 멋진 정취에 물들어 있다. 연못의 주위의 나무들의 초, 고즈미(정원의 물 흐르는 소리, 그 정취를 즐긴 것)의 기슭의 풀무라, 각각 일면에 아름답게 물들여, 근처 하늘 일면의 모습도, 정말로 아름다운 경치다. 그들에게, 그대로 돋보여, 부단한(나카노미야님의 안산기원을 위한) 독경의 목소리가, 한층 더 마음을 울리고 있다. 조금씩 시원해지는 바람, 끊임없이 들려오는 시끄러운 소리는, 밤새도록 들리고, 바람과 물과의 구별도 없다.



지금과 달리 이동 수단도 거의 없고, 에어컨도 없는 시대. 주된 통신수단은 문장(편지)에 한정되어 있던 시대이기 때문에 사람들의 자연과 사람의 마음을 민감하게

느끼는 능력이 연마되어 갔을지도 모릅니다. 한정된 공간 속에서 자신의 오감을 갈고 닦아서 맑게 하고 가을의 정취를 마음껏 느끼고 있던 무라사키 시키부의 감성에는 눈으로 지켜보는 것이 있습니다. 동시에 일종의 부러움의 생각도 솟아납니다.

현대에 사는 우리도 가끔 스마트폰을 두고 깊게 숨을 들이마시고 벼룩에 물을 조금 붓고 먹의 향기를 즐기면서 먹을 문지르고 달을 올려다보며 사람이나



자연의 변화를 생각하며, 천천히 붓을 잡고 글을 쓰는, 그런 호화스러운 시간을 갖고 싶은 것이라고 생각합니다.

## 사업추진계에서 알림

### <문화교류광장 정보코너를 이용해 주십시오>

일본어 학습정보와 외국인을 위한 생활 정보 등을 다국어로 제공합니다.

【장소】 네리마구 히카리가오카 3 - 1 - 1

【전화】 03 - 3975 - 1252

【개설시기】 평일은 오전 10시 ~ 오후 1시

토·일·축일은 오후 1시 ~ 4시

※연말연시 등 「문화교류광장」 휴관일은 제외

【대응언어】 영어 : 화·목·토      중국어 : 수·금·일      한국어 : 월

※그 외의 언어는 문의해 주십시오

### <외국어 상담창구를 이용해 주세요>

지역진흥과 사업추진계에서는 영어·중국어·한국어·타갈로그어·일본어로 여러 가지 상담이 가능합니다. 전화로도 상담을 받고 있습니다.

【장소】지역진흥과 (구청 본청사 9층) 네리마구 토요타마키타 6 - 12 - 1

【전화】 03 - 5984 - 4333

【개설일시】평일 오후 1시 ~ 5시

【대응언어】 영어 : 월~금      중국어 : 월~금      한국어 : 금

타갈로그어 : 월      ※그 외의 언어는 문의해 주세요.

일본인과 외국인이 교류할 수 있는 이벤트 등을 개최하고 있습니다. 상세한 내용은 여기로

【구공식 홈페이지】 <https://www.city.nerima.tokyo.jp/gaikokunohitomuke/bunka.html>

【QR】



네리마구지역진흥과 사업추진계

〒176 - 8501

네리마구 토요타마키타 6 - 12 - 1

네리마구청 본청사 9층

전화 03 ( 5984 ) 4333

e-mail:CHIKI17@city.nerima.tokyo.jp

편집:문화교류 광장

( 히카리가오카 3 - 1 - 1 )

다언어정보지원인

여 가옥 (한국어 담당)

이시다아츠코 (영어 담당)

나수 키요미 (중국어 담당)